

◎フージャース、シニア分譲1000戸へ
―アクティブマンション、つくばは完売

フージャースグループのフージャースケアデザイン(佐藤多聞社長)は、健常者向けのシニア分譲マンションで、累計約1000戸の供給にメドを付けた。第1弾の茨城県つくば市(150戸)に続き、5物件を計画。当面、首都圏の各都県で「2物件ずつ事業化していきたい」(佐藤社長)考え。将来的には「日本版CCRC」として、医療・訪問看護・訪問介護・看取り機能を併設した大規模施設も検討する。

「DUO SCENE(デュオセーヌ)」というブランド名でシニアマンションを展開している。サービス付き高齢者住宅の2倍以上の住戸広さ(40〜80㎡)や医療施設、介護施設と連携しているのが特徴。「健康寿命の延伸」を重視し、一部の物件ではタニタ食堂の昼食メニューを提供する。所有権方式であるため賃貸や相続も可能だ。5物件のうち、東京・町田市の「デュオセーヌ緑山」(82戸)、千葉県柏市の「デュオセーヌ柏の葉キャンパス」(266戸)、兵庫県三田市(106戸)、神奈川県厚木市(153戸)は既に販売を開始。価格帯は、2500万〜6500万円、販売坪単価は200万〜250万円。元氣なシニア向けという未開拓のマーケットであるため、周辺のファミリーマンションよりも高く設定できているという。

第1弾の「デュオセーヌつくばみらい」は、既に完売。購入者の平均年齢は70歳程度で、従前の居住地は東京都が3割、千葉県が2割、茨城県が2割、神奈川県が約15%、埼玉県が約15%と、首都圏の広い地域から集まった。夫婦と単身の入居が半々だった。